

第6学年 外国語科 学習指導案

指導者 京都市立向島秀蓮小中学校 6年担当 内海 拓人

1 単元名 My Future, My Dream (“NEW HORIZON Elementary English Course 6” Unit 8 参照)

2 単元の目標

後期課程の英語科の先生に、まだ知らない自分のことを知ってもらうために、将来の夢や後期課程でしたいことなどについての概要を聞き取ったり、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを内容を整理した上で話したりすることができる。

3 単元の評価規準〔記録に残す評価のみ記載〕＊後期課程＝第7～9学年（中学校第1～3学年）

聞くこと	<p>知・【What club do you want to join? I want to join … What do you want to be? I want to be … およびその関連語句】について理解している。</p> <p>技・後期課程でしたいことや将来の夢についてのやり取りを聞いて、概要を捉える技能を身に付けている。</p>
話すこと 〔発表〕	<p>知・【同上】について理解している。</p> <p>技・後期課程でしたいことや将来の夢について、【同上】を用いて、考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。</p> <p>思・『後期課程の英語科の先生にまだ知らない自分のことを知ってもらうために、将来の夢や後期課程でしたいことなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなど』を発表している。</p> <p>態・『同上』を発表しようとしている。</p>

4 生徒について（向島秀蓮小中学校では、義務教育学校として1～9年生までを生徒という呼称で統一）

- ・対話力の向上のために Small Talk やペアでのやり取りの中で、リアクションをしたり質問をしたりして、既習表現の定着や対話を続けることを目指して取り組んできた。
- ・言語活動では、英語を積極的に使おうと努力する生徒がいる一方で、既習表現を十分に活用できず、パターンプラクティスにとどまる生徒もいる。

5 本単元と研究の視点との関わり

【学習評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・中間交流では、相手意識をもった工夫をするために、質問内容を共有し「自分のことを知ってもらうためにどんなことを伝えたらいいのか」「後期課程の英語科の先生がどんなことを知りたいのか」などの視点をもって進めていく。 ・本時の学習を次につなげるために、次時のめあてや課題への手立てを振り返りに記入し、全体で共有する。これにより自己調整を促し、協働的な学びへと発展させる。
【言語活動の充実】	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の目標を明確にするために、後期課程の英語科の先生からの動画を活用する。その動画の内容を理解し、質問に答えることで、より詳しく自分のことを伝えられるようにしながら、単元を進めていく。
【小小・中連携】	<ul style="list-style-type: none"> ・施設一体型義務教育学校として、後期課程の教員が専門性を生かして前期課程の授業を担当して進める。内容や指導に関しては教科会などで共通理解して進めていく。 ・まだ習っていない後期課程の英語科の先生へ自分のことを一方的に紹介するだけでなく、紹介した内容に対してメッセージが返ってくるように、教員間で連携する。

6 指導計画（記録に残す評価を行わない時間にも、目標に向けて指導を行う。また、生徒の学習状況を全時間において確認し、メモ等を取っておく。）

時	指導計画	評価(記録に残す評価)
適時	【Sounds & Letters】 これまで学習してきたことをもとに、英語の文を声に出して読むことができる。	
1・2	単元の見通しを持つことができる。将来の夢や後期課程でしたいことについて概要を聞き取ったり、友だちと尋ねたり答えたりすることができる。	
3・4	将来の夢や後期課程でしたいことについて概要を聞き取ったり、内容を整理した上で友だちに尋ねたり答えたりすることができる。	聞：知技
5 (本時)	後期課程の英語科の先生に、まだ知らない自分のことを知ってもらうために、将来の夢や後期課程でしたいことなどについて、内容を整理した上で友だちに話すことができる。	話〔発〕：知技
6・7・8	後期課程の英語科の先生に、まだ知らない自分のことを知ってもらうために、将来の夢や後期課程でしたいことなどについて、内容を整理した上で話すことができる。	話〔発〕：思態

7 本時について(5/8)

(1) 目標 後期課程の英語科の先生に、まだ知らない自分のことを知ってもらうために、将来の夢や後期課程でしたいことなどについて、内容を整理した上で友だちに話すことができる。

(2) 展開

	生徒の活動	指導者の活動	*留意点 ◇支援
導入	○挨拶をする。 ○本時の流れを確認する。 ○Small Talk 「行きたい場所」 ○本時のめあてを確かめる。	・生徒が行きたい場所について話す際、複数の生徒に同じ質問を投げかけたり、関連する質問を加えたりする。	
	○Video message 後期課程の英語科の先生からのビデオレターを視聴する。	・単元のめあてを確認し、生徒から自分たちのメッセージを誰に伝えるかを確認する。 ・ビデオレターを見て感じた発表の工夫や内容を共有する。	*前時までに視聴してきたビデオレターから内容や形式を変えたものを見て、目的と相手意識を明確にした上で活動に入る。
後期課程の英語の先生に、まだ知らない自分のことを知ってもらうために、自分の将来したいことなどについて伝えよう。			
展開	○Step by step① 自分の発表内容を見返したり、ロイロノートで提出した音声を聞き返したりして話す内容を再構築する。 ○Communication time① 話し手や聞き手意識をもって、後期課程で入りたい部活や将来になりたい職業について話す。 ○中間交流 自分のことを知ってもらうために、どんなことを伝えたらいいのか。後期課程の英語科の先生がどんなことを知りたいのか。 ○Step by step② 紹介内容を自己調整しながら再構築する。 ○Communication time② もう一度、話し手や聞き手意識をもって、後期課程で入りたい部活や将来になりたい職業について話す。	SI: Hello, my name is ... I want to join the soccer team. I like soccer. I want to be a soccer player. I can play soccer well. S2: Do you like sports? SI: Yes, I do. S2: What subject do you like? SI: I like P.E. ・紹介する順番を考えていたり、関係あることを詳しく伝えていたりする発表を取り上げて、再構築できるように共有する。	◇自分の発表を再構築しているか机間指導で見取り、困っている生徒には具体的な方法を一緒に考えるなどして支援していく。 *発表者は聞き手には、「後期課程の英語の先生がどんなことを知りたいと思うのか」を意識しながら聞いたり質問したりするように声をかける。 *紹介する順番を考えていたり、関係あることを詳しく伝えていたりする発表を取り上げて、再構築できるように共有する。 *単元を通して自己調整ができるように、最後のやり取りを録画し、その映像を振り返ることで、自分の発表内容を見直し、改善につなげられるように指導する。
終末	○振り返りをする。	・次時の活動を確認したうえで、本時の学びを振り返る。録画した動画は、振り返りとともに提出できるようにする。	*単元終末に向けて共有したい姿を取り上げるようにする。

(3) 評価(記録に残す評価)

話[発]:知技	後期課程の英語科の先生に、まだ知らない自分のことを知ってもらうために、将来の夢や後期課程でしたいことなどについて、内容を整理した上で友だちに話している姿を確認する。 (行動観察・振り返りカード分析等)
「おおむね満足できる」状況と判断できる姿	
I want to join the soccer team. I like soccer. I want to be a soccer player. I can play soccer well. I like P.E. I like sports.などの表現を用いて、将来になりたい職業や関連する内容、後期課程で入りたい部活動やしたいことなどについて、内容を整理した上で話している。	